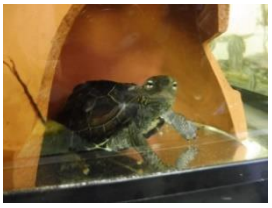
神戸高校生物班　活動報告

兵庫県立神戸高等学校自然科学研究会生物班
　２年　宇藤寛人　村田未来　森元千尋
　１年　渡利怜奈　浅田さくら　松江梨々子
　　西田みのり

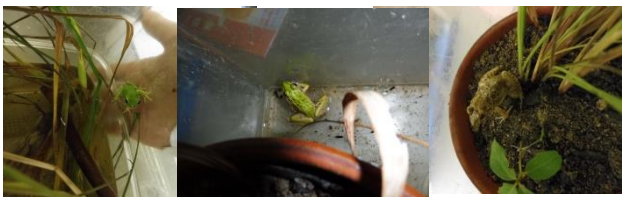
○飼っている生き物

←アカハライモリ
　部室に一番長く生き続けている長老。腹の部分に赤、黒、黄の模様が特徴。その模様は個体により違いがある。

クサガメ→
　在来種のように思うが、実は江戸時代に日本に入ってきた外来種。怒っている時に臭いにおいを出す。



←ニホンスッポン
　このサイズになると、食べるには身が硬い。噛みつかれないよう持ち方に注意が必要。持った感触はぶよぶよしている。



↑アマガエル、トノサマガエル、ツチガエル
アマガエルは飼育箱の上の、トノサマガエルは下の方にいることが多い。

　色々な生き物を飼育していると、普段は見過ごしていた生き物たちの生き様が見られ、個々による性格の違いが数多く見られた。

○葉脈標本とＤＮＡ占い

4/30　神戸高校文化祭
ヒイラギモクセイを使った葉脈標本の製作と自作のＤＮＡ占いを体験。
ＤＮＡ占い：２択の質問を３回行い、これよりコドンを定める。次にコドン表よりアミノ酸を決定し、各アミノ酸に基づいた占い結果を見る。

○レーウェンフックの顕微鏡

8/26･27　科学の祭典（バンドー青少年科学館）

黒いプラスチック板に穴をあけ、そこにビーズ球を入れ、レンズとし、プラスチックのしなりを利用してピント合わせができるようにした。また、プラスチック製のカバーガラスを使い、安全面にも考慮した。今回は観察や入手が容易なオオカナダモを試料としたが、今後は参加者の興味を引けるような試料を探していく必要がある。

○家島での臨海実習

7/30～8/1（県立いえしま自然体験センター）
ウニの発生実験と海の生物採集を行った。

<u>ウニの発生実験</u>

　沿岸で採集したムラサキウニから卵と精子を取り出して受精させ、発生の様子を顕微鏡で観察した。今年は採集したムラサキウニが昨年より小さく、約 2 時間 30 分で桑実胚まで進んだが、その後は形態は見られなかった。

<u>採集した生物</u>

イソギンチャク科、ホンヤドカリ科、イトマキヒトデ科、ハゼ科、フサカサゴ科、ゴンズイ科、ハオコゼ科、オウギガニ科、サラサエビ科など約 60 種類の生物を採集できた。

○日本産小麦「ゆめちから」栽培研究。

　神戸高校２階ベランダで、プランターを使用して日本産小麦「ゆめちから」を栽培研究を１０月より実施している。毎週２回、成長観察を続けており、現在（１月下旬）で 20～25 ㎝にまで順調に生育している。苗は 1 つの種から 3～5 株まで分げつが進んでいる。今後は施肥量を調節するなど栽培条件を変えることで、コムギの収量やタンパク質含量がどのように変化するかを調べていく。